

令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容

小学校音楽科 分科会 1 【実施日】 令和5年12月11日

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学 千住キャンパス			
	(所在地) 東京都足立区千住1-25-1			
講 師 (肩書・氏名)	今井由喜（渋谷区立渋谷本町学園中学校教諭），市川恵（東京藝術大学特任准教授）			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	50名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	領域及び分野の系統性を見据え、小学校から中学校の連携を図った音楽科の授業づくり		
研修内容の概要	学習指導要領においては、校種間の連携を図り、子どもの学びの連続性を確保することが求められている。表現及び鑑賞の活動を繰り返しながら、継続的に学習を進めることにより資質・能力が徐々に身に付いていくという、学習の特質をもつ音楽科において、校種間の連携を考えることは、子どもの学びを系統的に構築していく上で重要な課題である。そこで本研修では、音楽科における領域及び分野の系統性を見据えた授業づくりの課題や教材研究の方法を探究するとともに、講師による具体的な実践提案を体験することを通し、学習改善、指導改善に結びつく視点や方法を学ぶ。		
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科：「A表現」（3）「音楽づくり」ア、イ、ウ、「B鑑賞」（1）ア、イ、〔共通事項〕		
内容と方法	本研修では、資質・能力の育成を中核に位置付け、小学校から中学校への連続性・系統性を考慮した授業づくりについて探究する。具体的には、講師の実践提案による「音楽づくり」（「創作」）及び「鑑賞」の指導法を受講生一人一人が経験し、それを授業にどのように生かしていくかについて、教材選択や活動設定等の視点から考えていく。また、グループディスカッションを通して、中学校への接続を見通した学習を進めるための課題について理解を深め、各学校の実態に応じた連携のあり方を考察していく。		
到達目標	1 領域及び分野の系統性を見据えた音楽授業づくりについての知識を得たり生かしたりしながら、各学校の実態に応じた活動を工夫することができる。 2 授業改善に向けて、「音楽づくり」及び「鑑賞」の指導法や学習内容に生かせる視点と方法を考察することができる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）	参集
	15:00～15:15	休憩	
	15:15～15:30	リフレクション	個人作業
	15:30～16:10	グループディスカッション	グループワーク
	16:10～16:40	まとめと質疑応答	
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	筆記用具／可能であればタブレット端末やノートPCをご持参ください。		
特記事項	○資料の配布方法：当日配布 ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：学内に学食等はありません。		

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**小学校音楽科 分科会 2 【実施日】 令和5年12月13日**

担当大学名	エリザベト音楽大学			
会 場	(会場名) エリザベト音楽大学			
	(所在地) 広島県広島市中区幟町4－15			
講 師 (肩書・氏名)	三宅 悠太（作曲家・エリザベト音楽大学講師）川上統（エリザベト音楽大学准教授）			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員 (いずれか該当する欄に○)	参集 オンライン ○	50名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	歌唱・合唱指導の要点とICTを利用した音楽づくりのヒント			
研修内容の概要	①歌唱教材を使用した歌唱・合唱の指導の仕方について ②ICTを用いた音楽づくりの実践			
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科： A表現（１）歌唱，ア、イ、ウ（３）音楽づくり，ア、イ、ウ　〔共通事項〕			
内容と方法	①歌唱共通教材を用いて、楽曲の魅力を実感することを起点とした、子どもたちの主体的な表現を引き出すポイント等について学びます。 ②ICT機器を使用して、「音遊びや即興的に表現する」活動及び「音を音楽へと構成する」活動における活用方法を、基礎から応用までワークショップ形式で学びます。（音楽創作アプリ：Song Maker、Garage Band、電子楽器miniキーボード）			
到達目標	歌唱教材を使用した歌唱・合唱の指導の要点の理解、および様々なICT機器を使用した音楽づくりの方法（基礎から応用まで）を知り、授業展開や指導に活かせるようになる。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴／配信
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	歌唱・合唱指導の要点とヒント（１）低・中学年歌唱共通教材		配信
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:50	歌唱・合唱指導の要点とヒント（２）中・高学年歌唱共通教材		配信
	14:00～14:50	ICT機材を使用した音楽づくり（１）基本操作と理論		配信
	15:00～16:30	ICT機材を使用した音楽づくり（２）実践ワークショップ、質疑応答		オンライン・ワークショップ
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）		配信
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	iPadあるいはPC、身近にある簡単な楽器やminiキーボードなど オンライン参加：カメラ・マイクのついたIT機器			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無 ○受講する上での環境条件等：インターネット環境、マイク・カメラのあるPC			

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**小学校図画工作科 分科会 1 【実施日】令和5年12月14日**

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	前半(実技):酒匂克之准教授 石賀直之教授 後半(理論):石賀直之教授 酒匂克之准教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (いずれか該当する欄に○)	参集 ○ オンライン	28名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	「場の発想、場の変容、場の創出」考え方がわかる！場所や空間を生かした高学年の造形遊びの指導とICTの活用 PART2		
研修内容の概要	<p>自分自身を取り囲む環境とは一体どのようなものか、造形的な視点での「場所や空間の意味」とその価値に気づくための考え方、環境を生かした造形活動を通して学べることやその学習の流れについて、事例を見ながら理解していきます。その後、小グループを作り場所や空間を生かした造形活動を行います。実際の活動を通して、活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方について、講師と対話をしながらさらに理解を深めていきます。その後、受講者同士のグループディスカッションにおいて高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方について議論していきます。なかなか取り上げられる機会が少ない場所や空間を生かした造形遊びの本質的な考え方についてより深く学んでいきます。また、高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方についても具体的事例をもとに体験していきます。</p> <p>[学習指導要領との関連] 第5学年及び第6学年 A表現(1)ア(2)ア B鑑賞(1)ア 〔共通事項〕(1)アイ</p>		
内容と方法	<p>前半 実技講習 酒匂克之准教授 石賀直之教授 1) 場所や空間の概念やその特徴の気づき方、場や空間の変容の意味や価値、環境を生かした造形活動におけるICTの具体的な活用方法について理解する。 2) 大学内の様々な空間を生かして造形活動を行う。 3) 互いの活動を見ながら振り返りを行う。</p> <p>後半 理論講習 石賀直之教授 酒匂克之准教授 1) 前半の講習と学習指導要領の関連について理解する。 2) 高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方についてグループディスカッションを行う</p>		
到達目標	<p>○造形遊びにおける場所や空間の意味とその価値に気づくための考え方を理解する。  ○環境を生かした造形活動を通して学べることやその学習の流れについて理解する。  ○活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方を理解し、その指導法について学ぶ。</p>		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	講義：環境を生かした造形活動の意味	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:10	講義：グループ活動におけるICT機器の活用方法について	参集
	13:10～15:30	実技：環境を生かした造形遊び	グループワーク
	15:40～16:00	講義：学習指導要領から見る実技と造形遊びとの関連	グループワーク
	16:00～16:30	実技 グループワークによる題材作成	グループワーク
教材・持ち物等	受講会場で配布いたします。		
特記事項	<p>○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード  ○事前・事後課題の有無：なし  ○受講する上での環境条件等：なし</p>		

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**小学校図画工作科 分科会 2 【実施日】 令和5年12月15日**

担当大学名	愛知県立芸術大学			
会 場	(会場名) 愛知県立芸術大学文化財保存修復研究所既設講義室			
	(所在地) 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114			
講 師 (肩書・氏名)	阪野智啓（愛知県立芸術大学美術学部准教授）、井手康人（愛知県立芸術大学美術学部教授）			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	15名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	やまと絵技法から学ぶ材料科学や日本文化			
研修内容の概要	やまと絵は金・銀・雲母を用いた光輝表現を主体とし、水墨画を最上とした大陸文化と一線を画していた。研修では、現代ではほとんど用いられていない「雲母」の技法と「金銀箔」による装飾についての座学と実技を併せて実施し、日本絵画の伝統技法と、表現と材料のつながりについて理解を深めることを目的とする。			
	[学習指導要領との関連] 「A表現」(1)イ(2)イ「B鑑賞」(1)ア〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	専門知識と技術について、教員対象の解説と児童に向けての指導案を実践する [概要説明] やまと絵技法について [座学] やまと絵と光輝表現について、スライドを用いて作例を知る(鑑賞) [座学] 扱う材料の特徴を、スライドとプリントを用いて学ぶ(表現) [伝統技法] 雲母を和紙に塗る(表現) [伝統技法] 金箔・銀箔を貼る(表現) [まとめ] 自分のつくった作品に題名をつけ、鑑賞することを通して学習活動を振り返る。(鑑賞)			
到達目標	日本独自の絵画文化であるものの、注目度が低い「やまと絵」についての知識と技法材料について理解を深め、児童でも再現可能な範囲での伝統技法を習得する。			
スケジュール			実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴 / 参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）概要説明		PPT
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:30	テーマ別実践研修（午後の部）実技内容の座学		PPT
	13:30～14:30	実技①（雲母）		実技演習
	14:45～15:45	実技②（金銀箔）		実技演習
	15:50～16:20	題名決め、まとめ		各自作業
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）		
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	筆記用具、ハンカチ、ティッシュ、多少汚れてもよい服装			
特記事項	○資料の配布方法：現場で配布 ○事前・事後課題の有無： 無し ○受講する上での環境条件等： 無し			

令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容

小学校図画工作科 分科会3 【実施日】令和5年12月14日

担当大学名	愛知県立芸術大学			
会 場	(会場名) 愛知県立芸術大学第 5 講義室			
	(所在地) 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1－114			
講 師 (肩書・氏名)	藤原智也（愛知県立大学教育福祉学部准教授）、井手康人（愛知県立芸術大学美術学部教授）			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	30名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	日本の造形美術教育と国際理解・異文化理解に向けた作品鑑賞		
研修内容の概要	<p>子どもにとっての造形美術教育の意義を、人類の進化や脳の発達に基づいて概説した上で、日本の教育政策上の特徴と他国比較をもとに整理する。その後に、特に鑑賞学習をとりあげながら、自国文化や他国文化の特徴について子どもが「発見」を通して学べる授業づくりの方法について具体的に解説し、国際理解に向けて貢献できる図画工作の具体的な役割を理解する。</p> <p>[学習指導要領との関連]「B鑑賞」(1)ア〔共通事項〕(1)ア、イ</p>		
内容と方法	<p>この半世紀の認知科学では、人間に関する科学的な研究が行われるようになってきた。特に、その実証性から私たちの常識を刷新する知見として、進化と脳に関する研究成果が提出されており、その中で造形美術に関わる感性的な認知についても新事実が積み重ねられている。これらは、図画工作がもつ子どもの発達への貢献を理解する上で、重要な知見をもたらす。さらに学習指導要領や教育政策についての国際比較を含めた図画工作、美術教育の位置付けについても整理する。以上は講義型にて行う。その後に日本と西洋の作品について、ワークショップ型での比較鑑賞を行い、自国文化の特徴を「発見」をもとに体験によって理解する機会をつくり、その後に西洋美術との比較整理からどのような文化的特徴を日本が形成してきたのかを講義にて解説する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達において図画工作がどのような貢献をするのか、認知や感性の視点から理解する。</li> <li>・学習指導要領について、他国比較を踏まえた特徴を理解する。</li> <li>・鑑賞学習の授業作りについて、比較鑑賞の方法を体験的に理解する。</li> <li>・日本美術の特徴について、西洋美術との比較からその特徴を理解する。</li> </ul>		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:50	認知科学から見た子どもの発達と造形美術	講義（PPT）
	14:00～14:50	学習指導要領の特徴と国際比較	講義（PPT）
	15:00～15:50	比較鑑賞ワークショップ	演習
	16:00～16:50	日本美術の理解と西洋比較	講義（PPT）
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	筆記用具		
特記事項	<p>○資料の配布方法：当日に配布</p> <p>○事前・事後課題の有無： 無し</p> <p>○受講する上での環境条件等：インターネット接続ができる端末(スマートフォン等)</p>		

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） 分科会 1 【実施日】 令和5年12月11日**

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学 アーツ&サイエンス ラボ 球形ホール			
	(所在地) 東京都台東区上野公園12-8			
講 師 (肩書・氏名)	千住 明（作曲家、東京藝術大学客員教授） 佐野 靖（東京藝術大学副学長／教授）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 (いずれか該当する欄に○)	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	多様なアプローチから創作表現を創意工夫して楽しもう！			
研修内容の概要	生徒が様々な創作表現を創意工夫し、主体的に音楽活動を楽しむためには、教員自身が創作する楽しさや喜びを実感することが重要である。本研修では、創作表現に関わる知識や技能を学びつつ、創意工夫を生かした実践的な創作体験を通じて、新しい視点の発見や授業改善につながる具体的な方法を探究する。様々なジャンルの音楽に精通する講師からの情報提供を受け、受講生自身が「音楽的な見方・考え方」を大いに働かせたり、捉え直したりする学びの場としたい。			
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科：第1学年、第2学年及び第3学年「A表現」(3)創作ア、イ(7)(4)、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科音楽：音楽Ⅰ、Ⅱ「A表現」(3)創作ア、イ、ウ(7)(4)(9)、〔共通事項〕(1)ア、イ 音楽Ⅲ「A表現」(3)創作ア、イ、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ			
内容と方法	本研修は、創作表現に関する知識や技能を学ぶ講義と、提案される様々な創作方法を受講生が実践する場から構成される。 ・創作表現の基本的な知識・技能、及び多様なアプローチに関する情報提供 ・創作表現の実践体験 ・作品に対する評価及び省察 ・授業改善に向けての新たな発見等についての意見交換			
到達目標	1 創作表現に関する基本的な知識や技能を習得するとともに、音楽をつくる実践体験を通して創意工夫する楽しさを味わうことができる。 2 授業改善に向けて、創意工夫を生かした創作表現の指導法や学習内容に関して新たな視点や方法を考察することができる。			
スケジュール			実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）：講師による情報提供 創作表現に関わる基礎・基本や多様なアプローチを学ぶ		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～14:00	テーマ別実践研修（午後の部）：創作表現の実践①（各自作業）		参集
	14:00～14:30	発表と評価、省察		参集
	14:30～14:40	休憩		
	14:40～15:30	創作表現の実践②（グループワーク）		参集
	15:30～15:50	発表と評価、省察		参集
	15:50～16:30	授業改善に向けての新たな視点や方法		参集
	16:30～16:40	休憩		
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）		
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	特になし			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無： ○受講する上での環境条件等：創作にあたり、楽器等（鍵盤ハーモニカやリコーダー、iPad等）を必要とされる方は、ご自身でご持参ください。会場校からの提供はありません。			

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） 分科会 2 【実施日】 令和5年12月13日**

担当大学名	エリザベト音楽大学			
会 場	(会場名) エリザベト音楽大学			
	(所在地) 広島県広島市中区鞆町4-15			
講 師 (肩書・氏名)	エリザベト音楽大学准教授 佐々木悠 / エリザベト音楽大学教授 壬生千恵子 作曲家・エリザベト音楽大学講師 三宅悠太			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 (いずれか該当する欄に○)	参集 オンライン ○	50名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	音楽の捉え方、および指導実践のヒント～ネウマから合唱指導まで		
研修内容の概要	①西洋音楽の根源を知る～ネウマとリズムの基礎理論 ②世界の音楽と文化についての理解の視点 ③歌唱・合唱指導における要点とヒント 本講座では幾つかのトピックを取り上げ、授業展開に役立つ項目を多面的に学びます。		
	【学習指導要領との関連】 中学校音楽科：「A表現」(1)歌唱　ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科音楽：「A表現」(1)歌唱　ア、イ(ア)(イ)(イ)、ウ(ア)(イ)(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	①楽譜の源であるネウマについて、その音楽的・リズム的な意味を概説し、西洋音楽の根底に流れるリズムの本質を考えていきます。 ②世界の国や地域の音楽と文化について、様々な視点と理解の仕方を整理し、動画・資料を使用して紹介します。 ③実際の合唱作品を用いて、固有の演奏ポイントから他の楽曲に通ずる音楽の原理的な領域まで、幅広くレクチャーします。		
到達目標	音楽の根源や捉え方を多面的に知るとともに、生徒の関心や知識に合わせた授業・指導実践での活用について考察する。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:30	開講式・理論研修	動画視聴／配信
	10:30～10:45	休憩	
	10:45～12:00	西洋音楽の根源を知る	配信
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:20	世界の音楽と文化の視点	配信
	14:30～15:20	歌唱・合唱指導の要点とヒント（１）	配信
	15:30～16:30	歌唱・合唱指導の要点とヒント（２）、質疑応答	配信
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）	配信
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	特にありません。		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：　無し ○受講する上での環境条件等：オンライン視聴可能な環境		

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） 分科会 3 【実施日】 令和5年12月14日**

担当大学名	京都市立芸術大学			
会 場	(会場名) 京都市立芸術大学			
	(所在地) 京都市下京区下之町5 7 番 1			
講 師 (肩書・氏名)	細川 周平（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長） 林 幸治郎・竺原 みなみ（東西屋）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	30名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	音のある風景～ちんどん屋さんが街にやってきた。暮らしの中の音楽と文化について～			
研修内容の概要	店舗や商品の宣伝はSNSなどをはじめとするインターネットが当たり前の時代となりました。今や忘れ去られようとしている「ちんどん屋」は日本の伝統的な文化を基盤とする大衆文化の姿を今に残しながらも、独自の音楽とパフォーマンスを兼ね備え、国外から日本のストリートミュージックとして評価されている芸能の一つです。この研修では、「ちんどん屋」の音楽の特徴を活かした音楽づくりを体感しながら、生活や社会の中にある身近な音や音楽から日本の音楽文化について考えます。			
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科（全学年）「A表現」(2)器楽ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ) B鑑賞(1)ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ。高等学校芸術科音楽（全科目）「A表現」(2)器楽ア、イ(ア)(イ)(ウ)、ウ(ア)(イ)(ウ) B鑑賞(1)ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ) 〔共通事項〕(1)ア、イ。			
内容と方法	講義では「ちんどん屋」の活動を通して日本の大衆文化について考えていきます。演習では、「ちんどん屋」の演奏や「口上」をはじめとするパフォーマンスの鑑賞と参加者による「ちんどん太鼓」や「大太鼓」などの演奏、身体の使い方や他者との調和を意識した演奏などを行います。最後は「ちんどん屋」の特徴ある曲想に合わせて各自持参した楽器で自由にセッションを行い、「ちんどん屋」の良さを体感していただきます。			
到達目標	「ちんどん屋」の音楽の特徴と文化的・歴史的背景や他の芸術との関わり及び曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解するとともに、社会にとっての音楽の意味や価値などについて考え、授業計画等に生かすことができる。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～11:40	講義「東西屋繁盛記 一大道音楽の昨日今日」細川周平		参集
	11:40～12:00	午後の演習の説明		
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:30	演習「ちんどん屋の歴史と西洋音楽の受容」林幸治郎・竺原みなみ		参集
	13:35～14:05	演習「明治・大正期のはやり唄」		参集
	14:10～14:40	演習「楽音と非楽音、音楽と言葉について」		参集
	14:45～15:15	演習「物売りの声、わらべ唄、言葉の節回しとリズム」		参集
	15:20～15:50	演習「歩行と音楽の融合、歩行の意義とは？」		参集
	15:55～16:25	演習「運行の事例を試しながら、各々楽器を奏したり、唄ったりしてみる」		参集
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）		参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	各自、自由に演奏できる楽器（例：リコーダー、鍵盤ハーモニカ、金管楽器、木管楽器など。ただし電源を必要とする楽器は不可）			
特記事項	特になし			



**令和5年度 芸術系教科担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 1 【実施日】 令和5年12月15日**

担当大学名	武蔵野美術大学			
会 場	(会場名) 武蔵野美術大学			
	(所在地) 東京都小平市小川町1-736			
講 師 (肩書・氏名)	中原俊三郎 (武蔵野美術大学 工芸工業デザインt学科研究室教授) 山岡 正司 (武蔵野美術大学 工芸工業デザイン学科研究室特別講師) 大坪 圭輔 (武蔵野美術大学 教職課程研究室教授)			
対 象	中学校美術科・高等学芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当する欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	問題解決(社会課題)のデザイン/デザイン思考の構築
研修内容の概要	・テーマA：「子どもの、ベランダから転落を防止するデザイン」スケッチレベルでの提案 集合住宅のベランダから、子どもが転落する事故を予防する方法を提案する。(グループ作業) ・評価項目：問題発見力、具体的な解決力、アイディエーション力など
	[学習指導要領との関連] <b>■中学校美術</b> A表現(1)イ(ア)(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、イ(ア)〔共通事項〕(1)アイ、 <b>■高等学校芸術科美術Ⅰ～Ⅲ</b> A表現(2)デザインア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、イ(ア)〔共通事項〕(1)アイ 中学校美術における「デザインや工芸などに表現する活動」及び高等学校芸術科美術における「デザイン」における学習の中でも、ここでは特に目的や条件と機能を中心に取り上げる。具体的には、社会的課題を解決するための発想や構想の方法を、社会的要請でもあるデザイン思考によって体験的に学び、これからの学習指導に生かす方法を考える。
内容と方法	デザイン思考は、デザイナーがデザインを行う際に用いるプロセスを体系化したものであり、ユーザーの視点に立ちプロダクトやサービスの本質的な課題やニーズを発見し、問題を解決するための思考法として、現在ではさまざまな分野で活用されている手法である。また、デザイン思考は、イノベーションとの親和性が高く、経済産業省がデザイン思考を推進していることも、一般社会で注目されている背景でもある。今回の研修会を通じて、一つの社会的課題に対してさまざまな解決方法を見出し、その中から適切と思われる解決案を提案できるようにする。 本研修では、生活や社会の中にある課題から解決策を考えていく。具体的な課題の一つとして、住宅やマンションのベランダから子供たちが転落する事故がある。これはベランダの大きさや構造、手すりのデザイン等に課題があったとされているが、このベランダの構造にフォーカスし「環境やモノのデザインを変える」ことを視野に入れた解決策を考える。
到達目標	①デザイン思考について理解する。 ②あらゆる方面とのコミュニケーション方法を学び、スキルアップする。 ③プレゼンテーション力を身につける。

(次ページへ続く)

		実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／参集 聴講
	10:45～11:00	諸連絡・休憩	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部） ①前提講義 ②グループディスカッション（4人x5グループ） ・全体計画の検討、リサーチ	聴講 グループワーク
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:30	テーマ別実践研修（午後の部） ③グループディスカッション ・コンセプトメイキング ・アイディエーション ・まとめ	グループワーク
	15:30～16:30	④発表 ・各グループ10分（発表5分＋質疑5分） ・全体講評	発表 聴講
	16:35～16:55	⑤中高美術における題材としての展開の可能性について	聴講
	16:55～17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・ 持ち物等	<b>【大学 準備】</b> ・ポストイット（各種）、マーカー（太、中、細） ・ホワイトマーカー（太、中／黒、赤、青、緑）、消し具 ・Wi-Fi環境、電源延長コード <b>【受講生準備】</b> ・ノートパソコンもしくは、タブレット端末、 ・使用ソフトMicrosoft Office PowerPoint（プレゼン用）		
特記事項	受講する上での環境条件等：大学アクセスは武蔵野美術大学ホームページ参照 <a href="https://www.musabi.ac.jp/">https://www.musabi.ac.jp/</a> 昼食は学食、学内コンビニ、学内パンショップ利用可		

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**中学校美術・高等学校芸術科（美術） 分科会2 【実施日】 令和5年12月13日**

担当大学名	武蔵野美術大学			
会 場	(会場名) 武蔵野美術大学			
	(所在地) 東京都小平市小川町1-736			
講 師 (肩書・氏名)	春原史寛 武蔵野美術大学芸術文化学科准教授 三澤一実 武蔵野美術大学教職課程研究室教授			
対 象	中学校美術科, 高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当する欄に○)	参集 オンライン ○	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	ポップカルチャー作品の鑑賞活動における可能性		
研修内容の概要	中高生が関心を持つポップカルチャー作品（イラストやアニメなど）の鑑賞活動については、今日の生徒が関心を持って臨める新しい題材と考える。今回、造形的な視点を豊かにするために必要な知識として〔共通事項〕が位置付けられたが、ポップカルチャー作品の鑑賞においても、生徒が鑑賞の能力を発揮し、〔共通事項〕に関する学びも主体的に深めていける題材と考える。生徒が関心を持つ現代的な題材を、どのような視点で鑑賞したらよいか、ワークショップなどを取り入れながら題材開発について学ぶ。		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科B鑑賞（1）ア(ア)（イ）、イ(イ)〔共通事項〕（1）アイ 高等学校芸術科（美術）B鑑賞（1）ア(ア)(イ)(ウ)、イ(イ)〔共通事項〕（1）アイ		
内容と方法	デジタル・イラストを中心にアニメなどのコンテンツにも言及しながら、ポップカルチャー作品の社会的位置付け、美術との関係性、鑑賞の意義と観点、具体的な方法について提案・解説する。ワークショップでは、イラスト作品を絵画作品同様の観点やデジタル描画の特性などの多様な視点から鑑賞し、鑑賞の方法を発想することで題材化へとつなげる。以上により、生徒の生活空間にあふれるポップカルチャー作品を、生徒が鑑賞対象を自ら選択して主体的な鑑賞が行える可能性を持つ、新たな鑑賞対象として位置付ける。 まとめでは、三澤講師が春原講師の講演とワークショップを受けて、学習指導要領上の位置付けを確認するとともに、ポップカルチャーの鑑賞における資質・能力の育みを受講者とともに確認していく。		
到達目標	・ポップカルチャー作品における造形的な視点を理解し、作品がもつ鑑賞題材としての魅力を感じ取ることができる。 ・ポップカルチャー作品を題材として、鑑賞題材の開発ができるようになる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／配信
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～11:10	研修前の操作確認・オリエンテーション(三澤)	配信
	11:10～12:00	講義①：「ポップカルチャー作品鑑賞の意義と方法」（春原）	配信
	12:00～13:00	昼食	
	13:10～14:10	講義②：「ポップカルチャー作品鑑賞の意義と方法」（春原）	
	14:10～14:40	動画・音声等：「クリエイターによる鑑賞のポイント解説」	動画視聴
	14:40～14:50	休憩	
	14:50～15:30	演習：鑑賞ワークショップおよびグループワーク	各自作業
	15:30～16:00	演習：グループワークの発表・講評	グループワーク
	16:00～16:30	講義：まとめ「学習指導要領上の位置づけについて」（三澤）	
	16:40～17:00	全体講評（振り返り）	配信
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	特になし。		
特記事項	○事前・事後課題の有無： 事前に意識調査アンケート課題を予定。事後課題なし。 ○資料の配布方法： 研修会専用ホームページよりダウンロード ○受講する上での環境条件等： 特になし。		

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 3 【実施日】 令和5年12月11日**

担当大学名	秋田公立美術大学			
会 場	(会場名) 秋田公立美術大学			
	(所在地) 秋田県秋田市新屋大川町12-3			
講 師 (肩書・氏名)	大関智子（秋田公立美術大学 美術教育センター 助教）			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	15名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	日本画の材料と表現技法		
研修内容の概要	その特性について理解を深める。また、小作品の制作を通して基本的な制作工程を学ぶ。小作品の制作では、作品の主題を追求して表現するために、効果的な技法や材料の組み合わせを工夫し、創造的に表すことができるようにする。		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：「A表現」(1) ア (ア)(イ)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞 (1) ア(ア)、共通事項(1)アイ 高等学校芸術科（美術）：「A表現」(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞 (1) ア(ア)、〔共通事項〕(1)アイ		
内容と方法	日本画とはどのようなものかを知るため、歴史や表現の変遷に焦点を当てた導入の講義を行う。その後、支持体（和紙）や顔料（岩絵具、粉絵の具）、膠などの材料や用具について、実物の資料を参照にしながらその用法と特性について理解し、サムホールサイズ（227×158mm）の小作品を日本画の基本的な制作工程に従って制作する。また、学校現場における教材としての展開も視野に入れ、近年の教材化の動向についても講義の中で触れる。		
到達目標	・日本画の材料や用具、表現について知り、その特性を理解する。 ・日本画の技法や材料による効果的な表現を工夫し、作品における自身の主題を創造的に表す。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:10	オリエンテーション（趣旨説明、日程の確認など）	参集
	13:10～13:30	講義「日本画ってなんだろう？ー材料と表現からー」	参集
	13:30～16:30	小作品制作 ※適宜休憩	各自作業
	16:30～17:00	鑑賞／ディスカッション	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	・エプロンなど汚れても良い服装 ・サムホールサイズ／227×158mmのスケッチ（画題は自由、水彩絵具や色鉛筆等で着彩したもの） ・その他制作資料（各自で制作の参考にしたい資料）		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無： ○受講する上での環境条件等：		

**令和5年度 芸術系教科担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 4 【実施日】 令和5年12月15日**

担当大学名	秋田公立美術大学			
会 場	(会場名) 秋田公立美術大学 ももさだ展示室			
	(所在地) 秋田県秋田市新屋大川町1 2 - 3			
講 師 (肩書・氏名)	助教・尾花賢一			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	15名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	ダイナミックなドローイングを目指す！！		
研修内容の概要	ドローイングの定義や可能性を研究し、様々なインクや線描による表現技法を実践的に学ぶ。		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科　A表現（1）ア(ア)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞（1）ア(ア)、〔共通事項〕（1）アイ 高等学校芸術科（美術Ⅰ）　A表現（1）ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞（1）ア(ア)、〔共通事項〕（1）アイ		
内容と方法	前半はドローイングの美術史における変遷や作家・作品研究についての講義を行う。その後、ドローイングの知識と理解に基づき、実技を行う。大きなドローイング作品を完成させることを目指し、身体を超えたサイズに対峙する際の意識や体の動かし方も含めて作品制作に取り組む。学校現場において、絵画だけでなく立体などの空間を用いた表現や、共同制作など様々な状況での技術指導や声がけに繋げていくことを想定している。		
到達目標	作品としてのドローイングを通して、線描きのよさや美しさ、ドローイングという表現の可能性を考える。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・準備	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修1	グループワーク
	12:00～13:00	休憩	
	13:00～16:00	テーマ別実践研修2	各自作業
	16:00～16:10	休憩・準備	各自作業
	16:10～16:50	鑑賞・振り返り・片付け	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	黒い描画材（鉛筆、木炭、油性マジック、色鉛筆、クレヨンなど） ＊墨や絵具などの水場を使うものは不可、ハサミ、紙を貼り付けるもの（両面テープ、セロハンテープ、マスキングテープなど）、汚れても良い服装		
特記事項	○資料の配布方法：当日配布 ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：無し		

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 5 【実施日】令和5年12月15日**

担当大学名	沖縄県立芸術大学			
会 場	(会場名) 沖縄県立芸術大学 崎山キャンパス デザイン中央棟			
	(所在地) 〒903-0814 沖縄県那覇市首里崎山町4-212-1			
講 師 (肩書・氏名)	又吉浩 (沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 デザイン専攻 准教授)			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科 (美術) 担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	10名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	アニメーションの仕組みと表現方法			
研修内容の概要	<p>本研修は、アニメーションの仕組みと様々な表現方法を紹介し、ワークショップ形式によるアニメーション制作を行う。</p> <p>受講者は基本的なアニメーション制作の工程を学び、ワークショップにて主に粘土を素材としたコマ撮りアニメーションを制作する。絵コンテ制作を通して想像や発想を計画し、コマ撮り制作では実際の動きを観察して、素材の使い方や特徴を活かした映像表現を制作する。それに必要な用具の扱い方や技法を把握して指導することを主眼としている。さらに、「鑑賞」においても、他者の作品から気付くことや新たなアイデアの意見を交換する。</p> <p>[学習指導要領との関連]</p> <p>中学校美術科 「A表現」 (1) イ(イ)、(2) ア(ア)(イ)、「B鑑賞」 (1) ア(イ)、〔共通事項〕 (1) アイ</p> <p>高等学校芸術科：〔美術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ〕「A表現」 (2) ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、(3) ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、「B鑑賞」 (1) ア(イ)(イ)、〔共通事項〕 (1) アイ</p>			
内容と方法	<p>1 動画映像の仕組みやアニメーションの仕組みについて（午前の部）</p> <p>2 様々な素材を使ったアニメーション作品紹介（午前の部）</p> <p>3 アニメーション制作1：個別もしくはグループ（参加人数によって決定）でテーマを決めて絵コンテ制作（午後の部）</p> <p>4 アニメーション制作2：コマ撮り撮影（午後の部）</p> <p>5 完成したアニメーション作品を講評し、要点をおさえる。さらに、受講者と講師で意見交換を行う。（午後の部）</p>			
到達目標	<p>・映像の仕組みや様々なアニメーション手法を理解する。</p> <p>・アニメーションの制作工程を理解する。</p> <p>・素材による表現を工夫する。</p>			
スケジュール			実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）		参集／配信
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～17:00	テーマ別実践研修（午後の部）		参集／配信
	13:15	絵コンテ制作～コマ撮り制作		グループワーク
	16:15	作品完成後、講評会		グループワーク
	16:40～17:00	振り返り		
17:00	アンケート提出後、研修終了			
教材・持ち物等	・自身のスマートフォンもしくはタブレット			
特記事項	<p>○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード</p> <p>○事前・事後課題の有無：無し</p> <p>○受講する上での環境条件等：無し</p>			

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 6 【実施日】 令和5年12月14日**

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	助教 常田泰由（絵画専攻領域） 教授 山田猛 （教職課程）			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当する欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	ミニアートブック制作から題材開発へ ー表現と鑑賞及び言語活動、右脳と左脳との往還からー		
研修内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画専攻領域教員によるミニアートブック制作を通して、個及び他者との関わりをもった表現活動を行う。</li> <li>・教職課程教員及び絵画専攻とのTTにより、表現と鑑賞、右脳と左脳、描画と言語活動、生徒と指導者の視点等、それぞれの往還によるスパイラル的なイメージ生成を目指し、新たな視点や気づきを生み出すための授業デザインや題材開発を目指す。</li> </ul>		
	[学習指導要領との関連]中学校美術科：A表現(1)ア(ア)(2)ア(ア)(イ)B鑑賞 (1)ア(ア)共通事項(1)アイ 高等学校芸術科（美術Ⅰ）：A表現(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) B鑑賞 (1)ア(ア)共通事項(1)アイ		
内容と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半：形や色彩による表現活動 描く、切る、並べる、選ぶ、交換する、綴じる等の表現活動を、個人制作及び他者との関わりの往還を通してミニアートブック制作を行う。</li> <li>・後半：鑑賞活動 個と他者、描画と言語活動、生徒と指導者それぞれの視点、右脳と左脳、等々の往還をしつつ、言語活動を通してイメージ生成のスパイラル的な発展を目指しつつ、新たな視点や気づきを生み出すための授業デザインや題材開発について探る。</li> </ul>		
到達目標	ミニアートブック制作と鑑賞を通して、形や色彩による表現活動と言語活動、個と他者との関わり、右脳と左脳、生徒と指導者の視点等々のシームレスな往還により見えてくる、題材開発や授業デザインに繋がる新たな気づきや視点を生み出す。		
		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	オリエンテーション、レクチャー①、制作活動導入	参集／受講
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:45	演習①ミニアートブック制作	参集／制作
	14:45～15:00	レクチャー②	参集／受講
	15:00～16:40	演習②鑑賞及び討議	参集／グループワーク
	16:40～17:00	振り返り	参集／全体
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	筆記用具		
特記事項	○事前・事後課題の有無： 無 ○資料の配布方法： 研修会当日配布 ○受講する上での環境条件等：学食、学内コンビニエンスストア、学食スペース及び学内カフェテリア飲食スペース利用可。学外近隣には飲食店がありませんのでご注意ください。		

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 7 【実施日】 令和5年12月14日**

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 東京都八王子市宇津貫町1 5 5 6			
講 師 (肩書・氏名)	鷹野隆大 教授    小林貴史 教授			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集    ○ オンライン	10名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	見ることと見られること 一自己と他者、表現と鑑賞の往還からなる自己生成ー		
研修内容の概要	<p>「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、学習者自身が自らの学びや変容を自覚し、対話によって考えなどを広げたり深めたりする場面を設定することが求められている。</p> <p>本研修では、写真表現をもとに互いにポートレイトを撮影し、それらをセレクトすることを通して、そこに表現された自己のイメージ、他者のイメージから私自身をあらためて見つめ直していく。</p> <p>ここでは、対象を客体化し主体から切り離されたものとして表現へとつなげていくのではなく、対話を通して表現することと鑑賞することの往還を可能とし、自他への理解、そして自らの成長を実感できる機会としたい。</p> <p>そして、このことが美術科において求められる資質・能力の育成を支える学びの姿として、さまざまな造形活動に共有されることを学校教育の実践の場に重ねていく。</p>		
	[学習指導要領との関連]		
	中学校美術科：A表現（１）イ(イ)（２）ア(ア)(イ)、B鑑賞（１）ア(イ)、〔共通事項〕（１）アイ 高等学校芸術科美術：A表現（３）ア、イ B鑑賞（１）ア 〔共通事項〕（１）アイ		
内容と方法	<p>研修①</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・互いのポートレイトを写真で複数枚撮影する。</li><li>・撮影者と非撮影者がそれぞれ3～4枚の写真を選ぶ。</li><li>・互いが選んだ写真をもとに自他がもつイメージの特徴や違いから私自身を見つめていく。</li></ul> <p>研修②</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・研修①での体験をもとに中学校美術科、高等学校芸術科美術においての主体的・対話的で深い学びを実現するための表現と鑑賞の指導の関連を踏まえた授業をグループごとに構想する。</li><li>・授業構想を発表し、全体で指導のポイントを共有する。</li></ul>		
到達目標	表現と鑑賞の往還を可能とする研修体験をもとに、中学校美術科ならびに高等学校芸術科美術における授業改善へ向けての議論や発表を通して、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりへの理解と実践へとつなげる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）写真表現とポートレイト	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）ポートレイトの撮影と鑑賞	参集
	15:00～15:10	休憩	参集
	15:10～16:40	表現と鑑賞の往還をもとにした授業づくりの検討・発表 振り返り	参集
	16:40～17:00	全体講評 アンケート記入	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	・筆記用具		
特記事項	○資料の配布方法：当日配布 ○事前・事後課題の有無：なし ○受講する上での環境条件等：昼食には学食も利用できます。（学外近隣には飲食店がありませんので、ご注意ください。）		



**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 8 【実施日】 令和5年12月15日**

担当大学名	京都市立芸術大学			
会 場	(会場名) 京都市立芸術大学			
	(所在地) 京都市下京区下之町5 7 番 1			
講 師 (肩書・氏名)	飯田 真人（京都市立芸術大学美術学部教授） 北浦 雄大（京都市立芸術大学美術学部工芸科漆工専攻非常勤講師）			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	30名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	「古今素材～乾漆など伝統的な技法と新しい素材を用いた立体作品の制作～」		
研修内容の 概要	我が国には様々な伝統的な美術や工芸の素材や技法があります。その一つである漆工は東アジアを中心に発展してきました。漆工の基本には髹漆・乾漆・加飾などがあり、現代では器や家具などの生活に関わる作品のみならずその特色を生かした造形作品も制作されています。本研修では漆工を通して伝統的な日本の美術文化を学び、仏像をはじめ様々な造形に使われている乾漆の技法を教育現場でも安心して扱うことができる水性樹脂に応用し、彫刻などの立体造形の可能性について学びます。 [学習指導要領との関連] 中学校美術科A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)(イ) B鑑賞(1)ア(ア)、イ(イ)〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科美術A表現(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、 B鑑賞(1)ア(ア)、イ(イ)〔共通事項〕(1)アイ		
内容と方法	作品制作では素材や材料、用具などと身体感覚を駆使して表現していきます。はじめの講義では、素材に触れながら思考することを大切にした表現や鑑賞について話します。午後からは、漆の基本的な説明を行います。演習では乾漆の技法を応用し、発泡材を原型にして反応性ミネラルベースと純粋な水性アクリル樹脂でできた材料と寒冷紗などで立体成形し、箔を用いて表面を仕上げていきます。途中で乾燥等の時間を利用して本学の漆工の制作室等を紹介します。最後に制作した作品を基に鑑賞のワークショップを行います。		
到達目標	子どもたちが、日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特性などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り、素材や材料の特徴を生かしたり、組み合わせを考えたりしながら、豊かに発想や構想し、主体的に学びを深められる授業の計画ができる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	講義「素材から感じ取る～感性と知識の関係について～」飯田真人	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:40	講義「漆と造形」演習「乾漆技法と新素材の解説」北浦雄大	参集
	13:20～14:00	演習「発泡材を使った原型制作」	参集
	14:00～14:45	演習「乾漆の技法を使った水性樹脂加工」	参集
	14:45～15:15	漆工制作室見学	参集
	15:15～16:00	演習「研磨」「箔張り」	参集
	16:00～16:30	演習「鑑賞」飯田真人	参集
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	作業しやすい服装（当日着替えることもできます）ゴム手袋または軍手		
特記事項	研磨成形する際、粉塵等が発生します。アレルギー等ある場合はゴーグルやマスク等をご用意ください。		

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） 分科会 1 【実施日】 令和5年12月14日**

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学美術学部中央棟2F第3講義室			
	(所在地) 東京都台東区上野公園12-8			
講 師 (肩書・氏名)	三枝一将（美術学部工芸科鑄金研究室准教授） 渡邊五大（美術研究科美術教育研究室教授） 梶浦聖子（アーティスト・美術修士） 見目未果（美術学部工芸科テクニカルインストラクター） 三枝水幸（アーティスト・美術博士）			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 (いずれか該当する欄に○)	参集 ○ オンライン	25名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	体感する鋳金　～錫の鋳造ワークショップ～		
研修内容の概要	本研修では、融点が低く安全に作業しやすい錫合金を用いた鋳造ワークショップを２種紹介し、体験する。鋳金は金属を溶かして鋳型に流し込む太古から行われている技術である。鋳金の工程の中では、素材の熱や重さ、湿度や質感などを体感的に感じ取る感性が養われる。今回の研修ではその一端を体験しつつ、授業で実践することを想定した短時間のワークショップを行う。金属が熔ける様子や熱、鋳型素材や金属の硬さ、柔らかさ、肌合いを体感して、教育現場へと還元されることをねらいとする。		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術　Ａ表現(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、Ｂ鑑賞(1)ア(イ)イ(ア)（イ）、[共通事項](1)アイ 高等学校芸術科（工芸Ⅰ）　Ａ表現　(1)ア(ア)(イ)　イ(ア)(イ)、Ｂ鑑賞　(1)ア(ア)イ(ア)(イ)　[共通事項](1)アイ		
内容と方法	実際に錫合金を溶解、鋳造してチャームやレリーフ、小さなオブジェを制作する。ボール紙を糸鋸で切り抜く鋳型と、イカの甲殻を陰刻する鋳型のどちらか１つを体験して両者の表現上の特性を感じ取る。ワークショップだけでなく、元素記号、融点、密度などの化学的な学びをリンクさせたレクチャーも行い、鋳金研究室の工房見学では伝統的な技法と現代的な鋳金表現の一端を紹介する。		
到達目標	鋳金に関する知識や技能を活かして、金属素材による造形美や良さを感じ取り、生活の中の美術や工芸への理解を深める活動を工夫できるようにする。今後の授業での題材としての可能性と指導方法を考え、授業改善に向けて生徒の興味や関心を高める表現・鑑賞の視点や方法を考察できるようにする。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	工房見学、講師紹介、金属材料と鋳金に関するレクチャー	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～16:20	鋳造ワークショップ	参集
	16:20～16:30	片付け	
	16:30～16:40	休憩	
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	鉛筆、消しゴム、ボールペン（先端がボール状のもの）、エプロンまたは作業着 ＊足指の露出しているサンダル等での参加はできません		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：無し		

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） 分科会2 【実施日】 令和5年12月15日**

担当大学名	秋田公立美術大学			
会 場	(会場名) 秋田公立美術大学 木工金工室			
	(所在地) 秋田県秋田市新屋大川町12-3 秋田公立美術大学			
講 師 (肩書・氏名)	秋田公立美術大学 美術教育センター 教授・尾澤 勇			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	15名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	錫による、技法・表現の可能性 ー鍛金皿の制作を通してー
研修内容の 概要	<p>錫板を用いて、鍛金技法により皿等の制作を行う。錫は毒性のない金属として昔から食器などに使われてきた。錫板は、金鋸などで加工しても加工硬化せず、焼き鈍し工程を経ることがなく、変形加工を続けることができる。焼き鈍し後の希硫酸などによる酸化皮膜除去もいらない。木臼や砂袋に木槌などで打ち込むことにより、器状にすることが容易で、鍛金に必要な当金などの専門の道具が無くても、プラスチックや木の当て道具を工夫することで、鍛金の皿や器まで制作することができる。上品な銀色で、鋸目や表面のテクスチャーも工夫しだいで様々に表現することができる。融点も231.9℃と低くステンレス鍋で容易に融解することが可能である。鋳金・鍛金表現に広く用いることができることから「錫」は魅力ある工芸材料であるといえる。中学校や高等学校の生徒に、使う目的や条件などを基に、使用する者の立場や生活や社会の中での使用も考えながら、自己への思いや他者への願いを実現することのできる題材に発展させることができる。</p>
	<p>[学習指導要領との関連]</p> <p>中学校学習指導要領 美術科</p> <p>A表現 (1) イ (ウ)、 (2) ア (ア) (イ)、 B鑑賞 (1) ア (イ)、イ (ア) (イ)、〔共通事項〕 (1) アイ</p> <p>高等学校学習指導要領 芸術科（工芸）</p> <p>A表現 (1) ア (ア) (イ)、イ (ア) (イ)、 (2) ア (ア) (イ)、イ (ア) (イ)、 B鑑賞 ア (ア) (イ)、イ (ア) (イ)、〔共通事項〕 (1) アイ</p>
内容と方法	<p>オリエンテーション：鍛金と金工の教材化について（錫の溶融と板金制作の実演を含む）</p> <p>①使用用途を考え主題を生成し発想や構想を行い、錫板を無駄なく使用し、皿や器の形状を考え材料取り（外形を野書く）を行う。（皿や器の外形はあまり鋭角状な図案は避ける。）</p> <p>②錫板に外形図案を写す。</p> <p>③金切鋏（万能鋏）や糸鋸で切り抜き、外形の端面を鑢でバリを取り滑らかにする。</p> <p>④砂袋や古雑誌などを敷き、その上から木槌などで膨らみをつける。</p> <p>⑤金床や様々な形状の当金などを敷き金鋸でならしたり、鋸目や鑿などで装飾模様をつけるなどして完成に近づける。</p> <p>⑥耐水ペーパーで端面を研磨したり端打ち等を施したりし、全体にコンパウンドを付けて研磨して完成する。</p> <p>⑦受講教員同士でこの課題の授業への応用に対して、ディスカッションする。</p>
到達目標	錫板を用いた鍛金の皿等の制作を通して、実際に授業に展開するための指導上の注意点等を確認し、授業化の視点を深めることができる。

（次ページへ続く）

	実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30 受付	
	9:30～10:45 開講式・理論研修	動画視聴 / 参集
	10:45～11:00 休憩・会場移動	
	11:00～12:00 テーマ別実践研修（午前の部）オリエンテーション及び 錫の溶融と板金づくり（実演）	参集
	12:00～13:00 昼食	
	13:00～13:30 テーマ別実践研修（午後の部）発想や構想をし、錫板に外形図案を写す。	参集
	13:30～14:30 外形図案を基に切り抜き、膨らまし作業を行う。	各自作業
	14:30～14:40 休憩	
	14:40～15:15 金鎚によるならし、装飾模様付け。	各自作業
	15:15～15:50 切削、研磨等仕上げ、感想用紙を記入する。	各自作業
	15:50～16:50 作品講評（受講教員同士のディスカッション）及び振り返り	グループワーク
	16:50～17:00 アンケート記入	
	17:00 アンケート提出後、研修終了	
教材・ 持ち物等	教材：錫板2枚、感想用紙 各自の持ち物：軍手、作業しやすい服装	
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：作業着、軍手などを着用し安全に作業できる準備	

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） 分科会 3 【実施日】令和5年12月11日**

担当大学名	秋田公立美術大学			
会 場	(会場名) 秋田公立美術大学			
	(所在地) 秋田市新屋大川町12-3			
講 師 (肩書・氏名)	秋田公立美術大学教授 皆川嘉博			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	5~10名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	テラコッタ粘土を使った、縄文土偶＆縄文土器制作			
研修内容の概要	縄文土偶や縄文土器を実際に制作し、カタチや模様のデザインについて考えることにより、縄文人（古代人）はどのような発想でものをつくっていたのかを想像してみる。現代日本社会が失った美を探る。テラコッタ粘土を使って、自分なりの、世界に一つだけの縄文土偶、または縄文土器をつくる。時間が許せば、縄文ペンダントやピアスなど、アクセサリーも制作する。			
	[学習指導要領との関連] 中学校学習指導要領：A表現（１）ア(ア)、（２）ア(ア)(イ)、B鑑賞（１）ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ) 高等学校学習指導要領：A表現（１）ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞ア(ア)、イ(ア)(イ)			
内容と方法	講師（皆川）が縄文土偶、縄文土器を実際に制作してみせる。これをお手本にして受講生それぞれが、自分なりの世界に一つだけの縄文土偶＆縄文土器をつくる。希望者には、制作後、作品を大学の電気窯で焼成し、作品は着払いで郵送する予定。			
到達目標	受講者、それぞれが、自分なりの縄文土偶・縄文土器の一つ制作する。実際に形をつくることによって、縄文のデザインの素晴らしさ、貴重さに触れる。現在とかけ離れることなく、現代人にも魅力的に映る縄文土偶や縄文土器のよさや美しさを感じ取る。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～13:30	テーマ別実践研修（午後の部）		参集
	13:30～17:00			各自作業
	16:40～17:00	振り返り		
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	手洗い用のタオル、粘土などで汚れてもよい服装、参考にしたい縄文関係の本、など			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：無し			

**令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容**  
**高等学校芸術科（書道） 分科会 1 【実施日】令和5年12月13日**

担当大学名	東京学芸大学			
会 場	（会場名） 東京学芸大学			
	（所在地） 東京都小金井市貫井北町4-1-1			
講 師 (肩書・氏名)	加藤泰弘先生（東京学芸大学）、福元隆寛先生（福岡県立苅田工業高等学校）			
対 象	高等学校芸術科（書道）担当教員等	定員 (いずれか該当する欄に○)	参集 オンライン ○	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	学習評価につながる指導及びワークシートの工夫と、主体的に学習に取り組む態度の評価		
研修内容の概要	現職教員による、学習評価につながる指導及びワークシートの工夫、主体的に学習に取り組む態度の評価に係る授業提案、研修会参加者による協議、教科調査官による指導・講評を通して、新学習指導要領の趣旨と「指導と評価の一体化」のための学習評価への理解を深める。		
	[学習指導要領との関連] A表現・・・（２）漢字の書　ア（ア）（イ）、イ（ア）（イ）、ウ（ア）（イ） B鑑賞・・・（１）　ア（ア）（イ）、イ（ア） 〔共通事項〕・・・（１）　ア、イ		
内容と方法	・教科調査官による理論研修（高等学校芸術科書道に係る行政面からの解説） ・現職教員による授業研究発表（「書道Ⅰ」「漢字の書」「行書の創作」） ・研修会参加者による研究協議 ・教科調査官による指導・助言		
到達目標	・学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容、「指導と評価の一体化」のための学習評価について理解を深める。 ・学習指導要領で求められている、指導方法等の工夫・改善について、特に学習評価につながる指導及びワークシートの工夫と、主体的に学習に取り組む態度の評価について理解を深める。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／配信
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	配信
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:30	テーマ別実践研修（午後の部①）	配信
	14:30～14:45	休憩	
	14:45～16:15	テーマ別実践研修（午後の部②）	配信
	16:15～16:30	休憩	
	16:30～16:50	全体講評（文化庁教科調査官）	配信
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 芸術編』（書道記載部分） 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　芸術（書道）』		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：　無し ○受講する上での環境条件等：ZOOMの視聴が可能なネットワーク環境		